

事業活動の概要

自 2014年 4月 1日

至 2015年 3月 31日

社会福祉法人 溪 仁 会

2014年度 事業報告

施設名：西円山敬樹園

1. 総括

入所は、上期退所19名と例年並みであったが下期42名と大幅に増加し、判定会議の時期の変更等も行ったが入所が追い付かない状態が半年続いた。2月にはノロの発生が追い打ちを掛けたが、発生時の処理方法に改善を加える等今後の対応の参考としていく。

短期は、目標には届かないまでも平均8名台を維持していたが、年明けノロの影響で受け入れ停止となり予想外の落ち込みとなった。

GHも、出だしから4名の退所、またホーム長の交代、ノロと重なり補充に大変苦勞をしたが、下期は満床状態を継続した。また、介護度が下がっているのと、事務職の異動により人件費がUPしたことにより、利益率は11%を確保したものの、年間利益計画と人件費率は未達となった。

デイは、前センター長を在宅事業担当に移し体制を変更したが、新規はあるものの前期同様ご利用者の純増には結び付かなかった。

HHは、2事業所ともいくら募集をかけても職員が集まらず、派遣先を縮小せざるを得ず、売上が減少することにより固定費率がUPする悪循環に陥っている。

居宅は、こころの3名が退職及び退職予定による引き継ぎのため人件費の重複が、かなりの金額に昇った。また、こころ、敬樹園共に3名から4名体制に移行するため、人件費の重複は2014年度上期まで続く予定。

最後に全ての部門でとにかく人員不足の1年であった。

2014年度は、最低でも2事業所の合併を本部に申し出ている。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

2014年度も毎月の運営会議で、先月の介護報酬の分析と今後の改善・対処事項の確認を行い、特に部門毎の人件費率と利益率の提示を行い、結果として各率を認識するのではなく、逆に売上高の目標を認識してもらう事に重点をおいてきた。

新たな取り組みとして地域貢献の一環として、職場見学会の開催、地域支援事業により施設説明会の開催を行う。今後も地域理解及び人材確保に努めていく。職場見学会開催により2名の職員の採用に至っている。

看取りの体制を整えるべく、今年度より積極的に看取りの研修を取り入れている。

3. 職員状況（3月末現在）

○2015年3月31日職員状況

<西円山敬樹園（特養・短期・通所・訪問・居宅・予防）・グループホーム西円山の丘・こころ（訪問・居宅）>

医師：2名（非常勤）、看護職員：11名（内3名非常勤）、介護職員：82名（内9名非常勤）、生活相談員：5名、介護支援専門員：8名、介護予防：3名、作業療法士：2名、言語聴覚士：1名、管理栄養士：1名

常勤ホームヘルパー：6名、非常勤ホームヘルパー：38名、

事務職員他：11名

合計職員数 170名（常勤職員118名、非常勤職員52名）

○2014年度職員異動状況（常勤職員）

採用：20名（看護職員：6名、介護職員：14名）

退職：24名（看護職員：3名、介護職員：21名）

4. 研修参加・実施状況

○ 外部研修参加（施設職員参加状況） 51回 延べ27名参加

○ 内部研修 ～ 事故防止2回・感染予防2回・抑制廃止/高齢者虐待防止1回・褥瘡予防1回・介護技術研修1回
その他（新人職員研修・緊急時/災害時の対応・食事ケアと口腔ケア・理念の浸透・個人衛生・看取り等）

施設ケア部 延べ423名参加 その他各部署にて実施

2014年度 事業報告

西円山敬樹園

【入所：定員123名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>44,530 人</u>	<u>44,171 人</u>
一日平均入所者数	<u>122.0 人</u>	<u>121.0 人</u>
入所待機者	<u>371 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況	: <u>平均要介護度 3.54</u>	
協力医療機関	: <u>1. 札幌西円山病院</u>	
	<u>2. _____</u>	
	<u>3. _____</u>	

【短期入所生活介護：定員14名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>3,285 人</u>	<u>3,241 人</u>
一日平均入所者数	<u>9.0 人</u>	<u>8.9 人</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 2.8</u> (要支援1・2を除く)	

【通所介護：一般型30名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>6,066 人</u>	<u>5,860 人</u>
一日平均利用者数	<u>23.5 人</u>	<u>22.5 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.0</u> (要支援1・2を除く)	

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数 (介護保険)	<u>6,834 回</u>	<u>6,761 回</u>
(介護保険外)		<u>2,197 回</u>
一日平均利用回数 (介護保険)	<u>18.7 回</u>	<u>18.5 回</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.0</u> (要支援1・2を除く)	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>1,547 件</u>	<u>1,470 件</u>
(うち介護予防)		<u>223 件</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.2</u> (要支援1・2を除く)	

【介護予防センター】

(円山)

延相談件数 165 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：47 件 権利擁護：0 件 高齢者虐待：0 件

介護予防：94 件 その他：52 件

介護予防啓発普及事業実施件数

	実施回数	参加者数
すこやか倶楽部	<u>33 回</u>	<u>597 人</u>
介護予防教室	<u>39 回</u>	<u>301 人</u>
転倒予防教室	<u>34 回</u>	<u>281 人</u>
認知症予防教室	<u>47 回</u>	<u>353 人</u>
研修会・講演会	<u>1 回</u>	<u>27 人</u>
その他	<u>59 回</u>	<u>1,163 人</u>

(曙・幌西)

延相談件数 170 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：30 件 権利擁護：0 件 高齢者虐待：0 件

介護予防：125 件 その他：53 件

介護予防啓発普及事業実施件数

	実施回数	参加者数
すこやか倶楽部	<u>29 回</u>	<u>568 人</u>
介護予防教室	<u>18 回</u>	<u>273 人</u>
転倒予防教室	<u>9 回</u>	<u>129 人</u>
認知症予防教室	<u>11 回</u>	<u>187 人</u>
研修会・講演会	<u>0 回</u>	<u>0 人</u>
その他	<u>47 回</u>	<u>1,435 人</u>

2014年度 事業報告

西円山の丘

【グループホーム：定員27名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>9,740 人</u>	<u>9,669 人</u>
一日平均入所者数	<u>26.7 人</u>	<u>26.4 人</u>
入所待機者	<u>2 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況	: <u>平均要介護度 2.4</u>	
協力医療機関	: <u>1. 札幌西円山病院</u>	
	: <u>2. _____</u>	
	: <u>3. _____</u>	

2014年度 事業報告

ケアセンターこころ

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数（介護保険）	<u>8,248 回</u>	<u>7,236 回</u>
（介護保険外）		<u>3,623 回</u>
一日平均利用回数（介護保険）	<u>22.6 回</u>	<u>19.8 回</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.7</u> （要支援1・2を除く）	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>1,443 件</u>	<u>1,253 件</u>
（うち介護予防）		<u>72 件</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.0</u> （要支援1・2を除く）	

2014年度 事業報告

施設名：月寒あさがおの郷

1. 総括

- 「CS（利用者満足）の向上」～入居者のご家族を対象にサービス内容を含めたアンケート調査を実施し、様々なご意見を改めて把握することと致しました。CS向上においては、より安全かつ安心していただけるケアを永遠のテーマと掲げ、施設内における教育体制をより強化するとともに、職員負担軽減を考慮した新しい介護技術の習得に努めて参りました。また、施設内研修計画に基づいた研修実施は勿論のこと、季節的要素などを勘案し、多数のステークホルダー様からのご協力を得て、内部研修の充実を図って参りました。
- 「ES（職員満足）の向上」～ワークライフバランスの推進の一環として、年次休暇の取得率向上を目指すべく、取得しやすい職場風土づくりに努めました。また、施設内における衛生管理体制をより強化し、施設内安全衛生委員会において、産業医からの講義をはじめ、血中脂質の低減に向けた内容を掲示するなど、職員の安全と健康保持増進及び快適な職場環境の形成促進に努めました。更には下期より人事評価制度が施行されたことに伴い、まずは自己申告書により職員一人ひとりの様々な考えや思いを少なからず理解することができました。
- 「LS（地域満足）の向上」～札幌市社会福祉協議会からの要請により、一般市民啓発研修「社会福祉施設見学セミナー」や「ボランティア体験事業」を当施設にて実施しました。また、当施設の会場開放に加え、春から秋にかけて施設周辺における清掃活動を実施し、微力ながらも地域貢献を図って参りました。今後も継続して近隣住民の皆様からのご要望などを把握しつつ、地域への公益的な取組みを積極的に行って参ります。
- 「MS（経営満足）の向上」～収益においては、特養・通所介護事業ともに目標収益の確保までには至りませんでした。昨年度より実施されたチャレンジシリーズにおいて、短期入所事業が目標を達成し、特養収益の一部を補うことができました。支出面におきましても、従前より人財確保の困難が取り沙汰されており、思うような補充に至らず、目標収益の未達成額以上に人件費等の支出が計上されなかったことにより、結果として、目標利益額以上の利益計上となりました。目標収益の確保は勿論のこと、慢性的となってきた人財不足の解消に向けて、あらゆる手段・方法を検討していく必要があると感じております。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

- 毎月1回 施設運営会議において経営状況の課題について協議・報告を実施した。
- 参加者： 施設長、施設ケア部長 他 各部署責任者
- 内容： 毎月における各事業の予算収益・支出（人件費・事業費・事務費）・一日平均利用者数の確認と検証、加算算定状況の確認、平均要介護度の推移、人件費率及び利益率、新規加算算定取得に向けた数値確認など

<成果>

- 特養入居における空床期間の低減に向けた取り組みと通所から短期への併用利用の重要性が共通認識された。
- 特養における「経口移行加算」及び「経口維持加算Ⅱ」の算定により若干の増収が図られた。
- 「日常生活継続支援加算」の算定に向けて平均要介護度や認知症高齢者の日常生活自立度をより注視することができた。

<今後の展開>

- 上記取り組みの継続強化と新たな加算の算定に向けた取組みを含め、引き続き通所介護事業を柱とした施設内シームレスの更なる確立を目指し、安定した収入並びに利用者の確保に努めていく。

3. 職員状況（3月末現在）

○2015年3月31日職員状況<入所・短期・通所>

管理者1名、医師2名（非常勤）、看護職員10名（内非常勤1名）、介護職員62名（内非常勤7名）、生活相談員3名（通所管理者含む）、介護支援専門員1名（入所）、理学療法士1名、管理栄養士1名、事務職員・送迎運転手5名（内非常勤2名） 合計職員数86名【常勤74名（うち産育中4名）、非常勤12名】

○2014年度職員採用・退職等状況

採用：26名【看護職員2名（内通所1名）、介護職員22名（内通所3名）、送迎運転手2名】
退職：24名【看護職員3名（内通所1名）、介護職員20名（内通所5名）、送迎運転手1名】

4. 研修参加・実施状況

○外部研修参加状況（法人本部・溪仁会グループ内研修含む）

認知症介護実践者研修、北海道デイサービスセンター管理者研修（デイ協）、生活相談員研修（全国老施社）他
参加回数57回（内本部・グループ研修43回）、延102名参加

○内部研修実施状況

看取りケア、感染予防（ノロウイルス・インフルエンザ）、身体拘束・虐待防止・接遇、事故予防・記録 他
実施回数43回、延561名参加 ※外部講師5回

○その他～北海道・全国老人福祉施設協議会研究発表会（1演題）、溪仁会グループ研究発表会（5演題）を発表

2014年度 事業報告

月寒あさがおの郷

【入所：定員80名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>29,200 人</u>	<u>28,842 人</u>
一日平均入所者数	<u>80.0 人</u>	<u>79.0 人</u>
入所待機者	<u>252 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況	: <u>平均要介護度 3.6</u>	
協力医療機関	: <u>1. ごとう内科クリニック</u>	
	<u>2. 定山溪病院</u>	
	<u>3. 札幌歯科口腔外科クリニック</u>	

【短期入所生活介護：定員8名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>1,825 人</u>	<u>1,997 人</u>
一日平均入所者数	<u>5.0 人</u>	<u>5.5 人</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 2.8</u> (要支援1・2を除く)	

【通所介護：一般型45名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>8,928 人</u>	<u>8,632 人</u>
一日平均利用者数	<u>34.9 人</u>	<u>33.5 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.8</u> (要支援1・2を除く)	

2014年度 事業報告

施設名：岩内ふれ愛の郷

1. 総括

入居・ショート共に目標の稼働率を達成した。結果、収支状況においても、人件費率及び利益率共に目標を達成した。
 職員確保においては、看護職員・理学療法士などの有資格者については欠員なく推移した。また、この1年介護職員を含め退職者皆無で推移した。
 また、昨年度に後志総合振興局及び岩内町の指導監査を受けることとなった案件については、3月末に保険者の岩内町に年間に実施した研修報告書を提出した。これをもって一応の収束を迎えたが今後も継続して処遇向上に取り組んでいく。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

○2014年度の下記計画を確認した。
 1. 短期生活介護の安定した稼働 ①土日祝日の受け入れ実施
 2. 全職員参加型の教育（研修）の定例実施
 ○虐待防止について改善事項の取り組み10項目

3. 職員状況（3月末現在）

○2015年3月31日職員状況

施設長	1名	栄養士	1名	介護職員	20名
理学療法士	1名	看護職員	4名	事務職員	2名
相談員	2名	医師	1名（嘱託）	合計	32名

○定期業務委託：給食・清掃洗濯・夜間警備・浄化槽管理

4. 研修参加・実施状況

○施設内研修（全職員参加）

4月	・高齢者虐待防止研修会	
5月	・介護記録講習会	
7月	・排泄ケア勉強会	
10月	・介護記録をスラスラ書くための用語と名称 ・インフルエンザについての理解と正しい手洗いの方法	・入居者の家族からのクレーム対処術
11月	・正しい日本語の記載方法・記録の表現方法 その1 ・自然災害の基礎知識	・ケアプランについて ・障害と高齢者虐待事例検討
12月	・正しい日本語の記載方法、記録の表現方法 その2 ・不適切ケアについて	・感染症予防対策 ・入居者の家族からの質問対処術
1月	・ケアプランが出来るまで ・虐待の形態について	・ケアプランに対してのモニタリング記載方法 その1 ・入居者からのクレーム対処術
2月	・施設の防災について ・感染症研修 復讐	・施設虐待について
3月	・ケアプランに対してのモニタリングの記載方法 その2 ・虐待研修総復習	・アセスメントツールの方法

○施設外研修

10月	・後志老人福祉施設協議会 直接処遇研修会 前期	・処遇研修
11月	・虐待防止推進研修 ・メンタルヘルス研修	・後志老人福祉施設協議会 直接処遇研修会 後期
2月	・認知症高齢者介護の最前線	

2014年度 事業報告

岩内ふれ愛の郷

【入所：定員50名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>18,250 人</u>	<u>18,625 人</u>
一日平均入所者数	<u>50.0 人</u>	<u>51.0 人</u>
入所待機者	<u>5 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況	: <u>平均要介護度 3.0</u>	
協力医療機関	: <u>1. 指定管理者 医療法人溪仁会 泊村立茅沼診療所</u>	
	<u>2. 岩内協会病院</u>	
	<u>3. にしざき歯科医院</u>	

【短期入所生活介護：定員10名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>2,920 人</u>	<u>2,548 人</u>
一日平均入所者数	<u>8.0 人</u>	<u>7.0 人</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 2.19</u> (要支援1・2を除く)	

2014年度 事業報告

施設名：きもべつ喜らめきの郷・るすつ銀河の杜

1. 総括

2013年度の「きもべつ喜らめきの郷」に続き、2014年4月には「るすつ銀河の杜」が予定通り開設を迎えることができた。2014年度は新たに加わった、るすつときもべつの一体的な運営に向けた基盤整備を大きな課題とした一年であったが、両施設の人財と入居者の確保、効率的な人員配置等により、満床までに若干の時間を要したが、両施設とも目標稼働率を達成し、両施設併せた収支においても予算を上回ることができた。

又、サービスの質の向上をはかるため、各種委員会を定例開催し、内部・外部研修への積極的な支援、看取りケア（きもべつ2件、るすつ4件）の実施、ユニットの生活空間をより家庭的なものとする設えの工夫、認知症ケアへの実践として「学習療法」の導入等を実施し、これからの施設運営の基盤をつくることができた。さらに、下期は、「るすつ銀河の杜 デイサービスセンター」の開設に向け、更なる職員の確保や、運営に向けた課題を整理しつつ、留寿都村及び留寿都村社協等との調整をはかり、2015年4月1日の開設を迎えることができた。

今後は、職員の確保等の課題にも対応しつつ、二つの施設を一体的に運営しながら更なるサービスの質の向上を図ること、又、2015年度の介護保険制度及び報酬改定への対応策を検討し、早期に経営基盤の安定化をはかり、この地域における地域包括ケアシステムの一翼を担っていきたい。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

・毎月第3水曜日(16:30～)開催。 ※施設運営会議にて検討中。

1) 効率的な人員配置

- ・特養るすつ銀河の杜開設により、きもべつから19名を異動
- ・(留)夜勤者2名体制時の宿直体制の整備
- ・(喜)平日の日直(遅番)体制の整備

2) 各種加算の算定

- ・(留)2014年6月から「夜勤職員配置加算(Ⅱ)イ」を算定。
- ・(留)2014年7月から「サービス提供体制強化加算Ⅰ」を算定。
- ・(喜)2015年3月から「日常生活継続支援加算」を算定。
- ・看取り介護加算(喜2名、留4名)算定。
- ・今後、「認知症専門ケア加算Ⅰ」の取得に向け、「認知症実践者研修」及び「認知症実践リーダー研修」への積極的な研修参加を支援していく。

3) 費用等の見直し

- ・会議・委員会はTV会議システムを活用し、両施設一体で実施。又、本部主催研修もTV会議システムを活用し、8研修延べ78名が研修を受講することができ、超過勤務及び出張旅費等の削減効果も大きかった。
- ・(喜)2014年6月から清掃・守衛業務の見直しにより業務委託費(年額約29万円)を削減。2015年4月からは、再入札により更なる削減(年額約57万円)を行った。
- ・2015年度は、前年度との対比により、更なる経費の削減に取り組む。

3. 職員状況(3月末現在)

○2015年3月31日職員状況

非常勤医師3名、看護職員8名(内非常勤2名)、介護職員62名(内非常勤5名、派遣4名)、生活相談員兼介護支援専門員3名、管理栄養士1名、訪問介護員2名、事務職員他6名(内非常勤1名)

○2014年度職員異動状況

採用18名【介護職員16名(内新卒5名、派遣1名、非常勤1名)、看護職員1名(内非常勤1名)、非常勤医師1名】
退職13名【介護職員12名(内非常勤1名、派遣1名)、事務員1名】
異動1名【介護職員1名コミュニティホーム白石より】

4. 研修参加・実施状況

○内部研修実施回数：16回、延828名参加

ユニットケア、リスクマネジメント、感染対策、交通安全、事故防止、褥瘡ケア、虐待防止、接遇、認知症ケア等

○外部研修参加回数：66回、延182名参加

認知症介護実践者研修、認知症介護実践リーダー研修、医療的ケア教員講習会、全道老人福祉施設研究大会、
溪仁会グループ及び本部主催研修等

○今後も各委員会を中心に活動のレベルアップと積極的な外部研修参加の機会作っていく。

2014年度 事業報告

きもべつ喜らめきの郷

【入所：定員80名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>28,062 人</u>	<u>28,718 人</u>
一日平均入所者数	<u>76.9 人</u>	<u>78.7 人</u>
入所待機者	<u>15 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況	: <u>平均要介護度 3.0</u>	
協力医療機関	: <u>1. 喜茂別町立クリニック</u>	
	<u>2. 定山溪病院</u>	
	<u>3. 喜茂別歯科</u>	
	<u>4. ふじ歯科クリニック</u>	

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数 (介護保険)	<u>756 回</u>	<u>819 回</u>
(介護保険外)		<u>222 回</u>
一日平均利用回数 (介護保険)	<u>3.0 回</u>	<u>3.2 回</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 1.7</u> (要支援1・2を除く)	

2014年度 事業報告

るすつ銀河の杜

【入所：定員29名】※2014年4月1日事業開始

目 標

実 績

延入所者数 9,405 人 9,437 人

一日平均入所者数 25.8 人 25.9 人

入所待機者 5 人 (3月末現在)

要介護度状況 : 平均要介護度 2.4

協力医療機関 : 1. 留寿都診療所

2. 定山溪病院

3. 留寿都歯科診療所

2014年度 事業報告

施設名：手稲つむぎの杜

1. 総括

○ 2014年度の総括

「手稲つむぎの杜」は、6事業を運営する介護福祉の総合施設として2014年6月1日滞りなく開設、施設の経営理念・基本方針等を全職員が共有し全員体制でその具現化と実践に努めてきた。初年度は、特に施設経営基盤の基礎を固め施設運営（経営）を軌道に乗せることを目標に取組んだ結果、課題が明確になり、各事業実績は年度を通してほぼ順調に推移したほか、当初予算マイナス額の大幅縮小（約2,800万円）などの成果をあげることができた。

- 1 入所 入院や死亡による相次ぐ退所により目標には僅かに届かなかったが、最終3月にはアベレージ80人（満床）を達成した。一方、想定以上の介護職員の離職は職員の負担増を招き、事業執行にも少なからず影響を与えた。
- 2 短期入所 職員不足に対応すべく入居の受入方針を「入所優先・短期入所制限」としたことにより、アベレージは前半低水準となったが終盤は目標に近い数字にまで押し上げた。
- 3 通所 メディカル手稲ビルから移転後も、年度を通して堅調な数字を維持し、アベレージ、収益とも予算を上回った。
- 4 認知通所 新規事業でかつ性質上特に慎重・繊細な対応が求められる事業であることから、ご利用者・ご家族や地域からの安心と信頼の獲得に取組んできた結果、新規利用者登録数及びアベレージは着実に純増し続けた。
- 5 居宅支援 延べ利用者数は目標に僅かに届かなかったが、利用者紹介など施設内事業所間連携における役割も果たした。
- 6 介護予防 地域や関係機関・団体との連携やより積極的なPR活動等により、予防事業及び参加者の一層の増に繋がった。
- 7 その他 グループ内医療機関を中心とした医療機関との連携、町内会や地域団体等との地域連携、地域交流スペース解放等の地域貢献、専門学校等への定期訪問による関係強化等、次年度以降に繋がる取組みを積極的に推進した。

○ 今後の展開

2015年度は「安定と成長」の年度と位置づけ、職員の定着・育成やランニングコスト削減等の残された課題を整理しつつ、組織体制の強化と経営意識の醸成等により施設運営（経営）の安定化を目指す。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況> 施設運営会議（原則毎月第3金曜日）にて、課題の検証と対策を協議

○ 利用者の確保

新規開設ということもあり、入所においては早期に満床とすべく、計画的に受入を実施。退居等による空床発生時においては、スムーズな新規入居調整を意識した運営を推進した。短期生活並びに認知通所においては、介護職員の確保に苦戦を強いられ、一部受入制限を余儀なくされたが、下期には職員確保の目途が付き、各居宅介護支援事業所への営業等により、積極的な受入を進めた。

○ 各種加算の算定

入所においては9月より、短期生活においては10月より「サービス提供体制強化加算Ⅰ」を算定。その他個別加算においても、各部署連携のうえ、取得可能な加算を算定。

○ 水道光熱費及び費用の見直し

冬期間において想定以上に水道光熱費が高かったこともあり、暖房の使用方法の見直し、照明設備の節電等各部署協力のもと実施。また、オムツ等使用消耗品の見直しを随時実施し、費用の削減に努めた。

○ 2015年度に向けて

利用者の確保と併せて平均介護度の維持、取得可能加算の検証と体制整備に努め、安定した収入を確保する。費用面においては、開設初年度の結果を踏まえつつ、更なる経費の削減に取り組む。

3. 職員状況（3月末現在）

○ 2015年3月31日現在 職員状況 <入所・短期・通所・認知通所・居宅・介護予防> 合計118名（内非常勤24名）

- 1 入所・短期 管理者1名、医師1名（非常勤）、看護職員7名（内非常勤1名）、介護職員52名（内非常勤3名）、
介護支援専門員2名、理学療法士1名、管理栄養士1名、生活相談員2名、事務職員4名 ・計71名
- 2 通所・認知 管理者1名、看護職員4名（内非常勤2名）、介護職員32名（内非常勤14名）、作業療法士1名、
運転職員3名（非常勤） ・計41名
- 3 居宅介護 管理者1名、介護支援専門員4名 ・計5名
- 4 介護予防 相談員1名 ・計1名

○ 2014年度職員採用・退職等状況

- 1 採用：76名【看護職員8名（内通所1名）、介護職員67名（内通所6名）、事務職員1名】
- 2 退職：28名【看護職員4名（内通所1名）、介護職員24名（内通所2名）】
- 3 異動：22名【看護職員3名、介護職員9名、介護支援専門員2名、理学療法士1名、管理栄養士1名、
生活相談員2名、事務職員4名】※全て他施設より

4. 研修参加・実施状況

○ 外部研修参加状況（溪仁会グループ・キャリア支援室主催研修含む）

ユニットリーダー研修、メンタルヘルス研修、レクリエーション研修、クレーム対応研修、介護サービス計画作成研修、介護報酬改定研修、キャラバンメイト養成研修、ユマニチュード研修、ケアマネジメント能力向上研修、資質向上研修、リスクマネジメント研修、認知症ケアスキルアップ研修、対話力向上研修 他 ※参加回数80回、延258名参加

○ 内部研修実施状況

嚥下・口腔ケア研修、排泄研修、救急救命講習、褥瘡防止研修、認知症研修、接遇研修、事故防止研修、感染対策研修、キネスティクス研修、新人勉強会、リーダー勉強会、内部事例検討会 他 ※開催回数32回、延638名参加

2014年度 事業報告

手稲つむぎの杜

【入所：定員80名】※2014年6月1日事業開始

	目 標	実 績
延入所者数	<u>22,270 人</u>	<u>22,047 人</u>
一日平均入所者数	<u>73.3 人</u>	<u>72.5 人</u>
入所待機者	<u>335 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況	: <u>平均要介護度 3.81</u>	
協力医療機関	: <u>1. 手稲溪仁会病院</u>	
	<u>2. 手稲家庭医療クリニック</u>	
	<u>3. 安永歯科</u>	
	<u>4. _____</u>	

【短期入所生活介護：定員10名】※2014年7月1日事業開始

	目 標	実 績
延入所者数	<u>1,640 人</u>	<u>873 人</u>
一日平均入所者数	<u>6.0 人</u>	<u>3.2 人</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 2.67</u> (要支援1・2を除く)	

【通所介護：一般型65名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>17,045 人</u>	<u>17,268 人</u>
一日平均利用者数	<u>55.3 人</u>	<u>56.1 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.58</u> (要支援1・2を除く)	

【通所介護：認知症対応型12名】※2014年7月1日事業開始

	目 標	実 績
延利用者数	<u>1,518 人</u>	<u>977 人</u>
一日平均利用者数	<u>6.6 人</u>	<u>4.2 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.40</u> (要支援1・2を除く)	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>1,563 件</u>	<u>1,515 件</u>
(うち介護予防)		<u>24 件</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.63</u> (要支援1・2を除く)	

【介護予防センター】

(まえだ)

延相談件数 85 件

相談内容 (重複有)

介護保険制度：31 件 権利擁護：0 件 高齢者虐待：0 件

介護予防：40 件 その他：27 件

介護予防啓発普及事業実施件数

	実施回数	参加者数
すこやか倶楽部	<u>31</u> 回	<u>794</u> 人
介護予防教室	<u>6</u> 回	<u>148</u> 人
転倒予防教室	<u>14</u> 回	<u>401</u> 人
認知症予防教室	<u>11</u> 回	<u>221</u> 人
研修会・講演会	<u>0</u> 回	<u>0</u> 人
その他	<u>2</u> 回	<u>5</u> 人

2014年度 事業報告

施設名： 菊水こまちの郷

1. 総括

特養部門については、平均介護度が4.0以上という事もあり、年間を通して入退院が続いたが、他事業所との連携調整により、ほぼ目標に近い実績を上げることができた。(一日平均入所者数 2013年度28.3名⇒2014年度28.2名)

小規模多機能型居宅介護については、上半期は平均登録者数が伸びずに21.1名であったが、定期的に居宅介護支援事業所や病院関係に営業活動を実施し、下半期は24.5名まで伸ばすことができた。年間の平均登録者数は22.8名であったが、2月より登録者数MAXの25名で経過することができた。また、7月より新規開設した「認知症対応型通所介護(共用型)」については、登録者数1名(定員3名)にしか至らなかったが、さらなる認知症高齢者の受け皿を担うよう努力していきたい。

事故件数(誤薬)は、昨年度より若干増加傾向であったが、各所属長の協力もあり、施設全体でのご利用者様やご家族様からの苦情や大きな事故を起こすことなく施設を運営する事ができた。

施設独自の勉強会(こまちアカデミー)を開催して介護福祉士受験者は全員合格することができた。また、2015年度は、介護支援専門員の勉強会も開催していきたい。

2015年度は、事業所全体厳しい経営状態であるが、小規模多機能型居宅介護の登録定員の緩和で登録者数が29名に増員になり、新たな加算算定を取得して、地域密着型サービスの特徴を活かした取り組みを図ってきたい。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

・毎月第2金曜日(17:30~)開催

- 1) 7月に開設した【認知症対応型通所介護(共用型)】に向けて評価(サービス内容・登録増のための活動)
- 2) 小規模多機能型居宅介護登録者の確保と利用者様の区分(要介護度)変更・入居利用者様の区分(要介護度)変更
- 3) 入居、小規模多機能型居宅介護そして共用型デイ、兼任可能施設職員の在り方について
- 4) その他

<成果>

- 1) 7月より無事に開設できたが、登録者1名に留まる。今後はより幅の広い広報活動を実施し登録者増を目標とする。
- 2) 小規模についてはご本人様・ご家族様に説明が必要に応じ対応しているが目標介護度まで到達していない。今後も継続して実施。入居は、ほぼ目標通りの活動できた。
- 3) 各職種(介護福祉士・介護支援専門員)の常勤換算等条件を満たしながら、特養・小規模多機能型居宅介護、そして共用型デイ同一敷地内での兼務可能な職員を多くして、より効率的にシフト調整ができるようになった。今後も継続して実施し業務内容見直しを図りたい。
- 4) 日々の業務改善(入浴時間等について)検討を実施。次年度より試行的に変更して実施。

<今後の展開>

2015年度は、更なる専門性の向上や業務の効率化を図るため、地域密着型サービスの特徴でもある24時間365日の在宅生活を支援する「小規模多機能居宅介護」と認知症高齢者の受け皿を担う「認知症対応型通所介護(共用型)」そして、中重度要介護者を支援する「入居サービス」のある「当施設3つのサービス」の特色を明確にした経営改善プロジェクト活動を実施していきたい。

3. 職員状況(3月末現在)

○2015年3月31日職員状況

医師1名(非常勤)、看護職員3名、介護職員31名(内非常勤2名・派遣4名)、生活相談員1名、管理栄養士1名、介護支援専門員1名、事務職員他2名、合計40名(内非常勤2名・派遣4名)

○2014年度職員異動状況

採用7名【介護職員7名(転籍1名、契約1名、非常勤2名、派遣3名)】

退職5名【介護職員5名(常勤3名、非常勤2名)】

異動1名【介護職員1名(るすつ銀河の杜へ)】

4. 研修参加・実施状況

○内部研修実施回数：11回、延217名参加

接遇、リスクマネジメント、認知症の理解、緊急時対応、感染対策、交通安全、事故防止、褥瘡ケア、虐待防止、看取りケア、他施設見学、等

○外部研修参加回数：53回、延53名参加

認知症介護実践者研修、認知症介護実践リーダー研修、ユニットリーダー研修、特養看護と介護の連携協働研修、リスクマネジメント研修、認知症ケアスキルアップ研修、相談職研修、施設長研究セミナー

○今後も各委員会中心に活動のレベルアップと積極的な外部研修(全職員参加)参加の機会を作っていく。

2014年度 事業報告

菊水こまちの郷

【入所：定員29名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>10,404 人</u>	<u>10,278 人</u>
一日平均入所者数	<u>28.5 人</u>	<u>28.2 人</u>
入所待機者	<u>160 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況	: <u>平均要介護度 4.10</u>	
協力医療機関	: <u>1. 広川内科クリニック</u> <u>2. 白石中央病院</u> <u>3. 白石江仁会病院</u> <u>4. 札幌ひばりが丘病院</u> <u>5. 札幌歯科口腔外科クリニック</u>	

【小規模多機能型居宅介護：登録者定員25名（通い定員15名、宿泊5名）】

	目 標	実 績
延登録者数	<u>8,786 人</u>	<u>8,329 人</u>
※延通い利用者数		<u>4,643 人</u>
※延宿泊数		<u>1,153 人</u>
※延訪問数		<u>989 人</u>
一日平均登録者数	<u>24.0 人</u>	<u>22.8 人</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 2.22</u> (要支援1・2を除く)	

【通所介護：認知症対応型3名】※2014年7月1日事業開始

目 標

実 績

延利用者数 213 人 18 人

一日平均利用者数 1.8 人 0.2 人

要介護度状況 : 平均要介護度 1.00 (要支援1・2を除く)

2014年度 事業報告

施設名：カームヒル西円山

1. 総括

2014年度は、増加する要支援・要介護認定者のケア体制確保のために年度途中より介護職員を増員して一般入居者62名、特定施設入居者生活介護利用者38名へ変更し介護報酬の増額を行ってきた。しかし、年度末に死亡退去や入院等が相次ぎ結果として98.2名の在籍となった。また、二人部屋の待機者数がすくなく空室になっても早急に入居を調整することが困難な状況であった。関係機関や地域等への継続したPRが必要である。施設内ケアの面では、3年間の中で個別ケアの充実を目標に取り組んできたが、これまでの実践課程で軽度認知症者への対応が不十分であることが明確となった。

2013年から定期的に「認知症実践者研修」へ派遣すると共に、通年で認知症の内部研修を実施し職員のスキルアップ向上に取り組んできた。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

定例で実施している月1回の役職者会議において、入退院状況と一般、特定の入居調整を実施してきた。また、予算執行に関わる部分についても、予算と速報の数値を確認しながら執行してきた。また、職員会議では速報値に基づいて収支の報告をすると共に直接担当する業務と予算の内容、上・下期での収支状況も全職員に説明してきた。

<成果>

経営管理部門のみで収支状況改善の検討をするのみではなく、部門毎に役職者で検討し、結果について役職者以外の全職員へ説明、再検討することで施設全体の収支、運営状況を理解することにつながっている。

また、これまで介護度が高くなる、認知面の悪化で介護の手間が増えた入居者に対し、すぐに退去調整をする傾向であったが、ニーズを把握しケアハウス機能での支援が可能であるかを専門的に判断し、これまでよりもより長期の在籍が可能となり安定退去率の減少傾向にある。

<今後の展開>

これまでのケアハウス入居者の平均要介護度は1.2と比較的自立している方が多く在籍してきたが、サービス付き高齢者住宅の増加による待機者数の停滞、特養入所基準の変更による住み替えの調整が困難になる中、安定して入居者を確保していくためには特定施設入居者生活介護における介護サービスの提供体制がこれ以上に充実されることが望まれる。また、社会福祉法人の社会福祉施設として、専門的な機能を強化して地域の相談機関としての役割も必要とされている。この双方を強化、充実させることで安定した経営の基盤としたい。

3. 職員状況（3月末現在）

○2015年3月31日職員状況

看護職員：2名、介護職員：13名、相談員：1名、事務職員他：2名、合計：18名

○2015年度職員採用・退職等状況

退職⇒0名

採用⇒介護職員：1名

異動⇒介護職員：1名、相談員：1名（介護職員：1名西円山敬樹園へ・相談員：1名ケアセンターここころより）

4. 研修参加・実施状況

○参加：31回 参加者：延べ266名

外部研修：あいおいニッセイ同和損保・老人福祉施設協議会・全国軽費老人ホーム協議会・札幌市防災協会等

内部研修：高齢者虐待防止研修、感染症対策研修、事故防止対策研修、施設内認知症勉強会

・その他、2014年度も、各職員が自主的に研修や勉強会へ参加している。（休日や有休を用いて参加。）

2014年度 事業報告

カームヒル西円山

【入所：定員100名（特定施設含む）】

	目 標	実 績
延入所者数 （うち特定入居者）	<u>36,135 人</u>	<u>35,862 人</u> <u>12,626 人</u>
一日平均入所者数 （うち特定入居者）	<u>99.0 人</u>	<u>98.2 人</u> <u>34.5 人</u>

入所待機者（3月末現在）個人：90 人 夫婦：12 人 うち特定：45 人

要介護度状況 : 平均要介護度 1.2（要支援1・2を含む）

協力医療機関 : 1. 札幌西円山病院

2.

3.

2014年度 事業報告

施設名：コミュニティホーム白石・白石の郷

1. 総括

老人保健施設は、在宅復帰・在宅療養支援機能加算の算定要件である「在宅復帰率30%、ベッド回転率5%の実現」を基本目標とし、2014年度は年間を通して達成することができた。在宅復帰された入所者は延43名と、昨年度の24名を大きく上回る成果が得られた。しかし、老健入所ベッドのアベレージについては、2014年度も目標値を達成することができなかった。在宅サービスは、他事業所との競合による厳しい状況は続いているが、デイチャレンジの目標達成をはじめ、各サービスが昨年度に比べて利用者数の増加を達成することができた。

また、2014年度は、白石の各事業、各部署の連携強化を目指してきた。一部の委員会や会議体の構成員を見直し、幅広い職種や部署が参加することとした。2015年度も更に白石全部署の連携強化を進めたいと考える。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

毎月1回、プロジェクト会議を開催して施設運営上の課題について検討、協議を行った。

参加者： 施設長、施設ケア部長、経営管理部長、リハビリテーション部長、経営管理部次長、支援相談課主任、施設管理課長の7名。 他、議題により随時関係部署が参加した。

内容： 利用状況（アベレージ）確認、加算算定状況の確認及び新規加算の検討、在宅復帰促進と入所者数実績の両立を図る為の意識統一、2014年度BSC戦略目標の進捗状況確認と具体策の検討、その他運営上の課題について協議した。

<成果>

- 1 老人保健施設は、2014年度は全てのもで「在宅復帰・在宅療養支援機能加算」を算定することができた。
- 2 新たな加算として、5月から老健入所で「認知症短期集中リハ加算」を算定し平均単価アップに繋がった。
- 3 通所サービスの利用者獲得に向けて、体験利用者の食事代を無料とすることで体験利用者の増加を図った。
- 4 入退所判定会議に在宅部門（居宅、グループホーム、ショートステイ）が参加することとし、連携を強化することで利用の拡大を図った。入所アベレージ及び在宅復帰率の向上に繋がっている。
- 5 その他、時々の課題について協議し、運営会議を通じて白石全体の意識共有を図った。

<今後の展開>

2015年度に目標とした各課題の達成に向けて、プロジェクト会議が中心となって具体策の検討と進捗状況の確認を行う。また、介護報酬改定を受けて、経営状況の分析には一層の注意を払い適切に対応する。

3. 職員状況（3月末現在）

○2015年3月31日職員状況

医師1名、看護師19名（准看護師含む）、介護職員83名、作業療法士9名、言語聴覚士3名、相談員9名、介護支援専門員8名、地域包括・介護予防17名、管理栄養士1名、事務職員他21名、常勤ホームヘルパー4名、非常勤ホームヘルパー21名

※育児休業6名、育児短時間勤務3名

○2014年度職員異動状況

採用：30名（看護職員2名、介護職員21名、作業療法士2名、地域包括2名、送迎運転手3名）

退職：22名（看護職員1名、介護職員18名、介護支援専門員1名、地域包括2名）

転入：3名（介護職員2名、言語聴覚士1名）

転出：7名（看護職員1名、介護職員2名、作業療法士1名、言語聴覚士1名、地域包括1名、保健師1名）

4. 研修参加・実施状況

○溪仁会グループ本部主催研修会：延103名参加 ○溪仁会グループ研究発表会：4演題発表、38名参加

○社会福祉法人本部主催研修会：延78名参加

○北海道老人保健施設大会：1演題発表、7名参加 ○全国老人保健施設大会：1演題発表、3名参加

○日本言語聴覚学会：1演題発表、1名参加

○外部研修：「北海道作業療法学会」4名参加、「WFOT世界学会」1名参加、「日本作業科学セミナー」1名参加、「北海道高齢者虐待防止推進研修会」3名参加、「北海道看護協会主催研修会」6回、6名参加、その他の外部研修84件、合計延160名参加

○内部研修（全体研修）：「食中毒及び集団感染予防研修会」69名参加、「感染症予防研修会」3回、123名参加、「安全運転講習会」51名参加、「接遇研修会」2回、116名参加、「防災講習会」36名参加、他

○その他、各部署が部内研修会及び勉強会を多数実施した。

2014年度 事業報告

コミュニティホーム白石

【入所：定員100名（短期療養含む）】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>35,405 人</u>	<u>34,381 人</u>
一日平均入所者数	<u>97.0 人</u>	<u>94.2 人</u>
入所待機者	<u>16 人</u> （3月末現在）	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.6</u> （短期療養除く）	
協力医療機関	： <u>1. 札幌西円山病院</u>	
	<u>2. 白石中央病院</u>	
	<u>3. 札幌ひばりが丘病院</u>	
	<u>4. 東札幌病院</u>	

【通所リハビリテーション：定員50名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>9,844 人</u>	<u>9,994 人</u>
一日平均利用者数	<u>40.0 人</u>	<u>40.8 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.8</u> （要支援1・2を除く）	

【短期入所生活介護：定員19名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>5,961 人</u>	<u>5,624 人</u>
一日平均入所者数	<u>16.3 人</u>	<u>15.4 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.4</u> (要支援1・2を除く)	

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数 (介護保険)	<u>11,124 回</u>	<u>11,214 回</u>
(介護保険外)		<u>1,573 回</u>
一日平均利用回数 (介護保険)	<u>36.0 回</u>	<u>36.4 回</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.7</u> (要支援1・2を除く)	

【訪問リハビリテーション】

	目 標	実 績
延派遣回数 (介護保険)	<u>575 回</u>	<u>168 回</u>
(介護保険外)		<u>0 回</u>
一日平均利用回数 (介護保険)	<u>2.3 回</u>	<u>0.7 回</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.7</u> (要支援1・2を除く)	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	2,640 件	2,448 件
(うち介護予防)		41 件
要介護度状況	平均要介護度 1.8 (要支援1・2を除く)	

【第1地域包括支援センター】

延相談件数	596 件		
相談内容 (重複有)			
介護保険制度	476 件	権利擁護	4 件
		高齢者虐待	3 件
介護予防	17 件	その他の保健福祉サービス	8 件
認知症に関すること	14 件	消費者被害に関すること	4 件
住まいに関すること	24 件	心身の健康に関すること	2 件
その他	64 件		

会議開催、参加等

	主 催	参 加
運営会議	2 回	0 回
個別処遇検討会議	16 回	0 回
連絡会議	0 回	12 回
運営推進会議	0 回	71 回
地区組織関係会議	62 回	64 回
その他	1 回	11 回

新予防給付の入手とプラン作成件数

	入手数	直営プラン	再委託
要支援	854 件	402 件	78 件

【第3地域包括支援センター】

延相談件数	550 件		
相談内容 (重複有)			
介護保険制度	448 件	権利擁護	15 件
		高齢者虐待	1 件

介護予防： 9 件 その他の保健福祉サービス： 15 件
 認知症に関すること： 35 件 消費者被害に関すること： 2 件
 住まいに関すること： 18 件 心身の健康に関すること： 29 件
 その他： 63 件

会議開催、参加等

	主 催	参 加
運営会議	<u>2 回</u>	<u>0 回</u>
個別処遇検討会議	<u>14 回</u>	<u>0 回</u>
個別ケース会議等	<u>7 回</u>	<u>2 回</u>
介護予防調整会議	<u>0 回</u>	<u>3 回</u>
運営推進会議	<u>0 回</u>	<u>39 回</u>
地区組織関係会議	<u>49 回</u>	<u>78 回</u>
その他	<u>1 回</u>	<u>1 回</u>

新予防給付の入手とプラン作成件数

	入手数	直営プラン	再委託
要支援	<u>868 件</u>	<u>522 件</u>	<u>125 件</u>

【介護予防センター（白石中央）】

延相談件数 136 件

相談内容（重複有）

介護保険制度： 37 件 権利擁護： 1 件 高齢者虐待： 2 件
 介護予防： 43 件 その他： 53 件

介護予防啓発普及事業実施件数

	実施回数	参加者数
すこやか倶楽部	<u>38 回</u>	<u>672 人</u>
介護予防教室	<u>0 回</u>	<u>0 人</u>
転倒予防教室	<u>16 回</u>	<u>262 人</u>
認知症予防教室	<u>8 回</u>	<u>107 人</u>
研修会・講演会	<u>2 回</u>	<u>136 人</u>
その他	<u>4 回</u>	<u>248 人</u>

2014年度 事業報告

白石の郷

【グループホーム：定員18名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>6,463 人</u>	<u>6,267 人</u>
一日平均入所者数	<u>17.7 人</u>	<u>17.2 人</u>
入所待機者	<u>17 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況	: <u>平均要介護度 2.8</u>	
協力医療機関	: <u>1. よつばクリニック</u>	
	<u>2. 札幌歯科口腔外科クリニック</u>	
	<u>3. _____</u>	

【通所介護：一般型55名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>12,590 人</u>	<u>12,496 人</u>
一日平均利用者数	<u>41.0 人</u>	<u>40.5 人</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 1.9</u> (要支援1・2を除く)	

2014年度 事業報告

施設名：コミュニティホーム八雲

1. 総括

- 入所（短期含む）は、新規受入やタイムリーなベッド調整により1月まで順調に推移していたが、2月中旬から始まったインフルエンザ集団感染により入院者が続出し目標を達成することができなかった。
- 通所リハは、冬期の「デイチャレンジ2014」の目標はクリアしたものの2月に発生したインフルエンザ集団感染により3日間の営業停止を余儀なくされ、目標とする1日平均利用者数26.5人に0.3ポイント届かなかった。
- 訪問リハは、過去最高の15名の利用者を獲得し、目標とする1日平均利用者数4.0人に対し5.3人と大幅に上回る成績を上げた。
- 訪問介護は、新規利用者が17件獲得でき徐々に増えていたが、大口利用者の死亡や施設入所などで目標とする1日平均利用回数9.1回に対し実績は7.7回と伸び悩んだ。
- 居宅支援は、下期に入り紹介件数の著しい減少や入院、入所、死亡などのマイナス要因が重なり低迷した。
- 経営面では、予算以上の純利益を上げているが、灯油燃料価格の下落や職員人件費の減などによる費用が下回ったためであり、経常収益目標は未達成であった。
- 開設16年を経過し、地域から信頼される施設として存在感を得るようになってきた。それが離職率や有給休暇取得率に表れており、経営の向上につながっていると思う。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

- 通所リハは、定員増、無料体験利用、短時間通利用の導入など利用者増に取り組んだ。
- ショートステイは、空き情報の提供や病院との連携に力を入れた。
- 障害者雇用の受入、人材確保のため地元高校との雇用協力体制整備に取り組んだ。
- 職員親睦は、バトミントン大会やスポンジテニス大会、麻雀大会などの行事を企画・実施のほか、溪仁会ソフトボール大会やママチャリレース大会などへ参加し、延べ100名以上の職員が参加し親睦交流を深めた。

<成果>

- 通所リハは、イベントや外出行事で追加利用者を獲得できアベレージが向上、体験利用が正規利用に繋がった。
- ショートステイは、空きベッド情報の提供により病院と連携し円滑な再入所を図り、ベッドロスの削減に繋がった。
- 身体障害者1名を10月からパートの事務職員として雇用したが、稼働時間が短く法定雇用率を満たしていない。今後は、長時間勤務に繋げるよう進めていく。地元高校から2015年度新規学卒者1名を介護職員として採用した。
- 職員親睦行事は、離職率3.8%、有給休暇取得率78.0%、など職員満足度の向上に効果が表れている。

<今後の展開>

- 3年連続集団感染（ノロウイルス2回、インフルエンザ1回）が発生し、経営に大きなダメージを与えている。標準予防策が徹底されてなく、スタッフの危機意識が欠如しており、根本的な教育が必要である。
- 通所リハは、無料体験や短時間利用を継続し、利用者増に取り組んでいく。
- 言語聴覚士の採用により、経口維持加算Ⅱの算定や看取り加算など新たな加算の取得に取り組んでいく。
- 認知症専門ケア加算を取得するため認知症介護実践研修やリーダー研修への受講を支援していく。

3. 職員状況（3月末現在）

○2014年3月31日職員状況

医師：1名、看護職員14名（内非常勤4名）、介護職員48名（内非常勤6名）、療法士7名（内非常勤1名）、管理栄養士3名、介護支援専門員3名、相談員2名、事務職員他9名（内非常勤5名） 合計87名（常勤71名、非常勤16名）

○2014年度職員異動状況

採用：14名（看護職員3名、介護職員7名、管理栄養士1名、ヘルパー2名、事務員1名）

退職：3名（介護職員2名、療法士1名）

○離職率3.8%

4. 研修参加・実施状況

○内部研修：12回、延336名参加

主な内容：接客マナー、心肺蘇生救急救命、高齢者虐待防止、感染症予防対策、看取り、褥瘡予防、身体拘束研修など

○外部研修：72回、延136名参加（内溪仁会主催研修：24回、延46名参加）

主な内容：感染管理研修、認知症介護実践リーダー研修、介護福祉士実習指導者養成研修、認知症介護実践研修、高齢者虐待防止研修、接客マナー実践研修、身体拘束廃止研修など

○溪仁会研究発表会：1題提出（3名参加）

2014年度 事業報告

コミュニティホーム八雲

【入所：定員90名（短期療養含む）】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>32,120 人</u>	<u>31,778 人</u>
一日平均入所者数	<u>88.0 人</u>	<u>87.1 人</u>
入所待機者	<u>2 人</u> （3月末現在）	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 3.5</u> （短期療養除く）	
協力医療機関	： <u>1. 八雲総合病院</u>	
	<u>2. ヤクモ歯科クリニック</u>	
	<u>3. _____</u>	

【通所リハビリテーション：定員45名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>8,083 人</u>	<u>7,997 人</u>
一日平均利用者数	<u>26.5 人</u>	<u>26.2 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.2</u> （要支援1・2を除く）	

【訪問リハビリテーション】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>960 人</u>	<u>1,288 人</u>
一日平均利用者数	<u>4.0 人</u>	<u>5.3 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 3.5</u> (要支援1・2を除く)	

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数 (介護保険)	<u>2,800 回</u>	<u>2,370 回</u>
(介護保険外)		<u>0 回</u>
一日平均利用回数 (介護保険)	<u>9.1 回</u>	<u>7.7 回</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.3</u> (要支援1・2を除く)	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>1,194 件</u>	<u>968 件</u>
(うち介護予防)		<u>71 件</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.0</u> (要支援1・2を除く)	

2014年度 事業報告

施設名：コミュニティホーム美唄・すまいる

1. 総括

- ・2014年度の入所（短期療養を含む）の一日平均入所者数は、77.8名とほぼ目標を達成した。
入所者内訳：在宅10名、施設4名、病院11名、再入所122名、合計37名。年度平均介護度2.7。
退所者内訳：在宅0名、施設5名、入院18名、死亡14名（内看取り9名）、合計37名
- ・通所リハビリの1日平均利用者数は、44.0名となり、昨年度対比3名アップと大幅に伸びた。
- ・通所介護の1日平均利用者数は、23.0名とほぼ目標を達成した。
- ・2014年度は、ノロウイルスの罹患者は発生しなかったものの入所者のインフルエンザ罹患者が少数ではあるものの発生し、家族等への対応に労力が割かれた。
- ・感染症対策は、ドライミストによる湿度管理、次亜塩素酸による施設内消毒、全トイレ周りの1日2回の消毒を継続して実施した。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

前年度に引き続き経営改善プロジェクトを実施。

年度当初に目標を設定し、年度途中に進捗状況、3月の施設運営会議に実施状況・成果の報告を行った。

<成果>

各部署それぞれが工夫を凝らし、経費節減、収益の増についての取り組みを行なってきたことで、経費・収益ともに目標値をクリアし、一年を通して経営の安定を図ることが出来た。

安定的な経営に一番影響を与えるのは人件費であり、経営改善プロジェクトによる影響は現状大きいとは言えないものの、単年度のみならず将来にわたって安定を維持するためには、職員一人ひとりが経営に関心を持ち、より良い施策を検討して行くことが重要な手段であると考えられ、このことから、この経営改善プロジェクトに関して検討を進めてきたことには大きな意味があったと思われる。

<今後の展開>

2012年度より実施している経営改善プロジェクトについては、3月に開催の施設運営会議において今後のあり方について協議を行い、2015年度においても引き続き実施することを決定した。

3. 職員状況（3月末現在）

○2015年3月31日職員状況

(CH美唄) 医師1名、看護職員13名（内非常勤1名。准看護師含む）、介護職員46名（内非常勤10名）栄養士1名
相談員2名、事務・施設管理6名、療法士9名（内非常勤1名）、清掃・運転13名（全て非常勤）

合計：91名（内非常勤24名）

(すまいる) 介護支援専門員：5名、訪問介護員：27名、看護職員：3名、介護職員：9名、経営管理課等：8名、
合計：52名

○2014年度職員異動状況

(CH美唄) 看護職員⇒採用1名、退職1名、療法士⇒採用1名、退職2名、事務・施設管理職員⇒採用0名、退職2名
介護職員⇒採用11名、退職14名、清掃・運転⇒採用2名、退職1名

(すまいる) 看護職員 ⇒採用：1名、退職：1名 介護職員 ⇒採用：8名、退職：10名

運転職員 ⇒採用：0名、退職：0名 福祉入浴員⇒採用：0名、退職：0名 LSA⇒採用：0名、退職：0名

4. 研修参加・実施状況

○研修参加・実施状況

(CH美唄) 実施回数：61回、延111名参加・人材育成の為、積極的に研修受講を促した。

主な研修名称：溪仁会グループ研修会、老健協主催研修会、道介護福祉士会研修会、道社協主催研修会他

(すまいる) 溪仁会グループ主催の職員合同研修会等：0名参加、その他の集合研修：延33名参加

職員対象の内部研修：延115名参加、訪問介護事業所内研修：1回/月、通所介護・居宅介護事業所内研修：1回/2月

・2015年度は、三事業所の合同研修会を積極的に設けて、研修の充実を図る予定である。

2014年度 事業報告

コミュニティホーム美唄

【入所：定員80名（短期療養含む）】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>28,470 人</u>	<u>28,383 人</u>
一日平均入所者数	<u>78.0 人</u>	<u>77.8 人</u>
入所待機者	<u>26 人</u> （3月末現在）	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.7</u> （短期療養除く）	
協力医療機関	： <u>1. 市立美唄病院</u>	
	<u>2. 宝崎歯科分院</u>	
	<u>3. _____</u>	

【通所リハビリテーション：定員50名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>13,072 人</u>	<u>13,549 人</u>
一日平均利用者数	<u>40.0 人</u>	<u>44.0 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.2</u> （要支援1・2を除く）	

2014年度 事業報告

美唄市東地区生活支援センターすまいる

【通所介護：一般型30名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>8,084 人</u>	<u>7,099 人</u>
一日平均利用者数	<u>26.3 人</u>	<u>23.0 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.9</u> (要支援1・2を除く)	

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数 (介護保険)	<u>15,379 人</u>	<u>16,428 人</u>
(介護保険外)		<u>4,554 人</u>
一日平均利用回数 (介護保険)	<u>50.0 人</u>	<u>53.3 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.9</u> (要支援1・2を除く)	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>2,200 件</u>	<u>2,244 件</u>
(うち介護予防)		<u>386 件</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.0</u> (要支援1・2を除く)	

【福祉入浴】(自主事業)

延利用者数	<u>2,000 人</u>
一日平均利用者数	<u>12.9 人</u>

【高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業（L S A）】（受託事業）

対応件数 4,055 件

（安否確認：3,714 件 相談連絡：310 件 健康異変：14 件

ガス漏れ警報器：2 件 非常呼出：15 件 その他：0 件）

2014年度 事業報告

施設名：コミュニティホーム岩内

<h2>1. 総括</h2> <p>1. 入所は、一日平均入所者数の目標を達成し、昨年の実績同様の結果となった。平均介護度についても、年々上昇傾向にある。</p> <p>2. 通所リハビリは、冬期間の体調不良（インフルエンザ）や入所への移行があり、延利用者数、一日平均利用者数ともに目標を達成することができなかった。</p> <p>3. 訪問看護の介護は、一日平均利用者数は目標を達成することができなかったが、医療は、目標を達成することができた。全体で利用者数の大幅な増とはならなかったが、地域での訪問看護に対するニーズに対応することができた。</p> <p>4. 小規模通所介護は、延利用者数・一日平均利用者数ともに、目標を達成することができ、顧客へのニーズに対応することができた。</p> <p>5. 居宅介護支援は、延利用者数は目標を達成することができなかったが、在宅サービスの拠点としての活動を実施し、「コミュニティの丘」内での連携も図れてきている。</p> <p>6. 地域包括支援センターは、介護予防事業の継続に加え、地域ケア会議への活動や地域での新たな取り組み（はつらつ元氣塾等）に積極的に活動することができた。</p> <p>7. 事業所内保育所は、職員が働きやすい環境となり、児童の利用者も増となっている。また、保育所利用を希望する応募者が増え、雇用の機会も同様に増となっている。</p> <p>8. 職員の送迎を実施し、地域での人材の確保の機会も増となっている。</p> <p>9. 前年度末に施設長の退職があり、新施設長を配置するとともに、非常勤医師の応援を受けて診療体制を確保している。</p>																																																													
<h2>2. 経営改善プロジェクト活動状況</h2> <p><活動状況></p> <p>○ 岩内ブロックは、「コミュニティの丘」と称して、コミュニティホーム岩内はじめ全事業所を含めた各職種の代表責任者を指名し開催した。</p> <p>参加者：コミュニティホーム岩内施設長（医師）、岩内ふれ愛の郷施設長、ケア管理部長、経営管理課課長代理、支援相談課主任、リハ課主任、栄養課副主任、以上の7名で構成</p> <p><成果></p> <p>○ 母体となるコミュニティホーム岩内を含め「コミュニティの丘」全施設・事業所の情報の共有化を図り、職種代表者の指揮のもと、施設・事業所間を横断して利用者の処遇向上に取り組み、上期は目標を達成できたが、下期は利用者率の低下により全体での目標を達成することができなかった。</p> <p><今後の展開></p> <p>○ 2015年度は、コミュニティの丘運営会議を最高決定機関とし、コミュニティホーム岩内・岩内ふれ愛の郷・在宅部門の会議体を分けることで、それぞれの分野の課題に取り組み、目標の管理を行い運営の改善を図る。また、地域に貢献する活動を継続し、運営の充実を図っていく。</p>																																																													
<h2>3. 職員状況（3月末現在）</h2> <p>○ 2015年3月31日職員状況</p> <table border="0"> <tr> <td>・医師</td> <td>： 3名</td> <td>（正職員 0名</td> <td>契約職員 0名</td> <td>非常勤職員 2名</td> <td>嘱託職員 1名）</td> </tr> <tr> <td>・理学療法士</td> <td>： 7名</td> <td>（正職員 7名</td> <td>契約職員 0名</td> <td>非常勤職員 0名</td> <td>嘱託職員 0名）</td> </tr> <tr> <td>・作業療法士</td> <td>： 3名</td> <td>（正職員 3名</td> <td>契約職員 0名</td> <td>非常勤職員 0名</td> <td>嘱託職員 0名）</td> </tr> <tr> <td>・栄養士</td> <td>： 1名</td> <td>（正職員 1名</td> <td>契約職員 0名</td> <td>非常勤職員 0名</td> <td>嘱託職員 0名）</td> </tr> <tr> <td>・看護職員</td> <td>： 23名</td> <td>（正職員 13名</td> <td>契約職員 0名</td> <td>非常勤職員 8名</td> <td>嘱託職員 2名）</td> </tr> <tr> <td>・介護職員</td> <td>： 76名</td> <td>（正職員 18名</td> <td>契約職員 41名</td> <td>非常勤職員 17名</td> <td>嘱託職員 0名）</td> </tr> <tr> <td>・相談員</td> <td>： 11名</td> <td>（正職員 9名</td> <td>契約職員 0名</td> <td>非常勤職員 2名</td> <td>嘱託職員 0名）</td> </tr> <tr> <td>・事務職員</td> <td>： 10名</td> <td>（正職員 8名</td> <td>契約職員 0名</td> <td>非常勤職員 2名</td> <td>嘱託職員 0名）</td> </tr> <tr> <td>・運転手</td> <td>： 7名</td> <td>（正職員 1名</td> <td>契約職員 0名</td> <td>非常勤職員 6名</td> <td>嘱託職員 0名）</td> </tr> <tr> <td>・合計</td> <td>： 141名</td> <td>（正職員 60名</td> <td>契約職員 41名</td> <td>非常勤職員 37名</td> <td>嘱託職員 3名）</td> </tr> </table> <p>*有資格者の定数配置はできている。</p>		・医師	： 3名	（正職員 0名	契約職員 0名	非常勤職員 2名	嘱託職員 1名）	・理学療法士	： 7名	（正職員 7名	契約職員 0名	非常勤職員 0名	嘱託職員 0名）	・作業療法士	： 3名	（正職員 3名	契約職員 0名	非常勤職員 0名	嘱託職員 0名）	・栄養士	： 1名	（正職員 1名	契約職員 0名	非常勤職員 0名	嘱託職員 0名）	・看護職員	： 23名	（正職員 13名	契約職員 0名	非常勤職員 8名	嘱託職員 2名）	・介護職員	： 76名	（正職員 18名	契約職員 41名	非常勤職員 17名	嘱託職員 0名）	・相談員	： 11名	（正職員 9名	契約職員 0名	非常勤職員 2名	嘱託職員 0名）	・事務職員	： 10名	（正職員 8名	契約職員 0名	非常勤職員 2名	嘱託職員 0名）	・運転手	： 7名	（正職員 1名	契約職員 0名	非常勤職員 6名	嘱託職員 0名）	・合計	： 141名	（正職員 60名	契約職員 41名	非常勤職員 37名	嘱託職員 3名）
・医師	： 3名	（正職員 0名	契約職員 0名	非常勤職員 2名	嘱託職員 1名）																																																								
・理学療法士	： 7名	（正職員 7名	契約職員 0名	非常勤職員 0名	嘱託職員 0名）																																																								
・作業療法士	： 3名	（正職員 3名	契約職員 0名	非常勤職員 0名	嘱託職員 0名）																																																								
・栄養士	： 1名	（正職員 1名	契約職員 0名	非常勤職員 0名	嘱託職員 0名）																																																								
・看護職員	： 23名	（正職員 13名	契約職員 0名	非常勤職員 8名	嘱託職員 2名）																																																								
・介護職員	： 76名	（正職員 18名	契約職員 41名	非常勤職員 17名	嘱託職員 0名）																																																								
・相談員	： 11名	（正職員 9名	契約職員 0名	非常勤職員 2名	嘱託職員 0名）																																																								
・事務職員	： 10名	（正職員 8名	契約職員 0名	非常勤職員 2名	嘱託職員 0名）																																																								
・運転手	： 7名	（正職員 1名	契約職員 0名	非常勤職員 6名	嘱託職員 0名）																																																								
・合計	： 141名	（正職員 60名	契約職員 41名	非常勤職員 37名	嘱託職員 3名）																																																								
<h2>4. 研修参加・実施状況</h2> <table border="0"> <tr> <td>○ 看護・介護基礎研修</td> <td>担当職員</td> <td>○ 新人研修</td> <td>学卒新人職員</td> </tr> <tr> <td>○ ユニットケアについて</td> <td>全職員</td> <td>○ ユニットリーダー研修</td> <td>2名（前期1名・後期1名）</td> </tr> <tr> <td>○ 高齢者虐待防止研修</td> <td>担当職員</td> <td>○ 認知症実践者研修</td> <td>4名</td> </tr> </table>		○ 看護・介護基礎研修	担当職員	○ 新人研修	学卒新人職員	○ ユニットケアについて	全職員	○ ユニットリーダー研修	2名（前期1名・後期1名）	○ 高齢者虐待防止研修	担当職員	○ 認知症実践者研修	4名																																																
○ 看護・介護基礎研修	担当職員	○ 新人研修	学卒新人職員																																																										
○ ユニットケアについて	全職員	○ ユニットリーダー研修	2名（前期1名・後期1名）																																																										
○ 高齢者虐待防止研修	担当職員	○ 認知症実践者研修	4名																																																										

2014年度 事業報告

コミュニティホーム岩内

【入所：定員100名（短期療養含む）】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>36,135 人</u>	<u>36,298 人</u>
一日平均入所者数	<u>99.0 人</u>	<u>99.3 人</u>
入所待機者	<u>5 人</u> （3月末現在）	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 3.06</u>	
協力医療機関	： <u>1. 協会岩内病院</u>	
	<u>2. 中村歯科医院</u>	
	<u>3. _____</u>	

【通所リハビリテーション：定員50名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>11,172 人</u>	<u>10,431 人</u>
一日平均利用者数	<u>41.5 人</u>	<u>38.2 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.43</u> （要支援1・2を含む）	

【地域包括支援センター】

延相談件数 150 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：87 件 権利擁護：2 件 高齢者虐待：2 件
 介護予防：7 件 その他：19 件

会議開催、参加等

	主 催	参 加
運営会議	<u>12 回</u>	<u>12 回</u>
二次予防会議	<u>12 回</u>	<u>12 回</u>
個別処遇検討会議	<u>0 回</u>	<u>4 回</u>
連絡会議	<u>3 回</u>	<u>3 回</u>
運営推進会議	<u>0 回</u>	<u>7 回</u>
地区組織関係会議	<u>0 回</u>	<u>17 回</u>
その他	<u>0 回</u>	<u>9 回</u>

新予防給付の入手とプラン作成件数

	入手数	直営プラン	再委託
要支援	<u>77 件</u>	<u>104 件</u>	<u>5 件</u>

【訪問看護】

	目 標	実 績
延派遣回数	<u>3,600 回</u>	<u>3,220 回</u>
（うち介護保険外）	<u>1,080 回</u>	<u>1,080 回</u>
一日平均利用者数	<u>15.4 人</u>	<u>13.1 人</u>

要介護度状況 : 平均要介護度 1.60 (要支援1・2を含む)

【通所介護：一般型10名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>2,304 人</u>	<u>2,382 人</u>
一日平均利用者数	<u>9.0 人</u>	<u>8.5 人</u>
要介護度状況	平均要介護度 <u>1.36</u> (要支援1・2を含む)	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>300 件</u>	<u>230 件</u>
(うち介護予防)		<u>0 件</u>
要介護度状況	平均要介護度 <u>1.57</u> (要支援1・2を除く)	

2014年度 事業報告

施設名：溪仁会ハーティケアセンター

1. 総括
1. 通所介護 延利用者数67,632名で平均要介護度1.9であった。収支的には、依然厳しい状況であるとともに介護職員の欠員補充が厳しい状況であるが、同業他社との差別化を図り健全なる運営を目指す。
2. 居宅介護支援 地域包括支援センター・札幌西円山病院地域連携室等各医療機関の地域医療連携室からの紹介及び喜茂別町のプラン作成などで収支は大幅に改善された。新規利用者数が伸びており、年間延作成年数3,718件(内介護予防232件)であった。
3. 訪問看護 在宅復帰に伴う新規利用者増で目標を達成し黒字を継続することができた。年度末において看護師の欠員補充も完了し、新規利用者の受入が可能となった。
4. 障がい者相談支援 手稲地区の障がい者相談窓口として存在が確立され、行政及び地域関係機関との連携を図ることができた。相談件数増加に対応する為に職員を増員し過重なる、登録者数139名と相談支援件数2,077件と増加傾向にある。
2. 経営改善プロジェクト活動状況
<活動状況> ○溪仁会ハーティケアセンター運営会議において各事業所より運営状況及び改善状況の報告。 参加者：通所介護 … あおば・新琴似・豊平・円山 居宅介護支援 … あおば・こころまるやま 訪問看護 … あおば 障がい者相談支援 … こころていね 開催日：毎月第3水曜日開催
<成果> ○各事業所の問題点の共有をすることで個々の事業所で抱えていた問題点を解決する手段が出来た。
<今後の展開> ○2015年度も上記の形を継続し成果を上げていきます。
3. 職員状況(3月末現在)
○2015年3月31日職員状況 ・管理者：8名 ・相談員：11名 ・介護支援専門員：10名 ・看護職員：23名(内非常勤職員12名) ・介護職員：101名(内非常勤職員40名) ・理学療法士：1名 ・作業療法士：4名 ・事務職員：5名 ・運転職員：19名(内非常勤職員18名) ・合計：181名(内非常勤職員72名) *各事業所とも人員の定数配置はできている。
4. 研修参加・実施状況
○溪仁会グループ・キャリア支援室主催：65名参加 ○外部研修：各地区通所連絡会、各地区在宅ケア連絡会、認知症介護実践者研修、キャリア段位評価者研修 介護技術研修、主任ケアマネフローアップ研修、北海道慢性期医療協会、訪問看護ステーション連絡協議会 札幌市難病対策事業研修、札幌市ケアマネ指導者研修、福祉用具研修、喜茂別町地域ケア会議 介護支援専門員研修、札幌市予防給付研修、基礎研修、インターライフ方式作成研修 他法人認知症通所介護事業所研修

2014年度 事業報告

青葉ハーティケアセンター

【通所介護：一般型65名】

	目 標	実 績
延利用者数（一般型）	<u>16,246 人</u>	<u>15,310 人</u>
一日平均利用者数（一般型）	<u>52.5 人</u>	<u>49.5 人</u>
要介護度状況 一般型	： <u>平均要介護度 2.0</u> （要支援1・2を除く）	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数 （うち介護予防）	<u>1,995 件</u>	<u>2,077 件</u> <u>144 件</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.8</u> （要支援1・2を除く）	

【訪問看護】

	目 標	実 績
延派遣回数 （うち介護保険外）	<u>3,802 回</u> <u>240 回</u>	<u>4,132 回</u> <u>417 回</u>
一日平均利用者数	<u>14.9 人</u>	<u>16.2 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.2</u> （要支援1・2を除く）	

2014年度 事業報告

豊平ハーティケアセンター

【通所介護：一般型70名】

	目 標	実 績
延利用者数（一般型）	<u>17,961 人</u>	<u>17,516 人</u>
一日平均利用者数（一般型）	<u>58.1 人</u>	<u>56.7 人</u>
要介護度状況 一般型	： <u>平均要介護度 1.8</u> （要支援1・2を除く）	

2014年度 事業報告

円山ハーティケアセンター

【通所介護：一般型75名】

	目 標	実 績
延利用者数（一般型）	<u>20,037 人</u>	<u>18,618 人</u>
一日平均利用者数（一般型）	<u>64.8 人</u>	<u>60.2 人</u>
要介護度状況 一般型	： <u>平均要介護度 2.0</u> （要支援1・2を除く）	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>1,345 件</u>	<u>1,641 件</u>
（うち介護予防）		<u>88 件</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.8</u> （要支援1・2を除く）	

2014年度 事業報告

手稲溪仁会ハーティケアセンター

【障がい者相談支援事業】

◇委託相談支援事業

新規登録者	102名	登録抹消者	12名	年度末登録者数	139名
(地区別)	中央区 2名	北区 4名	西区 12名	手稲区	121名
(障がい種別)	身体 28名	重心 5名	知的 63名	精神 22名	発達 18名
	高次脳 1名	難病 1名	その他	1名	
(児・者別)	障がい児	50名	障がい者	89名	
支援方法	訪問 337件	来所 121件	同行	134件	
	電話 203件	ケア会議 50件	関係機関	278件	
	メール 1件	その他 0件	連絡・調整	564件	
	登録外相談 389件	合計	2,077件		
支援分類	福祉サービスの利用に関する支援	877件			
	障がいや病状の理解に関する支援	17件			
	健康・医療に関する支援	43件			
	不安の解消・情緒安定に関する支援	41件			
	保育・教育に関する支援	11件			
	家族関係・人間関係に関する支援	35件			
	家計、経済に関する支援	45件			
	生活技術に関する支援	18件			
	就労に関する支援	47件			
	社会参加・余暇活動に関する支援	0件			
	権利擁護に関する支援	1件			
	連絡・調整	564件			

◇指定相談支援事業（サービス利用計画）

新規計画	22件	(内年度内終了者2件)
モニタリング	72件	

2014年度 事業報告

新琴似ハーティケアセンター

【通所介護：一般型65名】

	目 標	実 績
延利用者数（一般型）	<u>16,173 人</u>	<u>16,188 人</u>
一日平均利用者数（一般型）	<u>52.3 人</u>	<u>52.4 人</u>
要介護度状況 一般型	：平均要介護度 <u>1.9</u> （要支援1・2を除く）	

1. 各部・室・課の活動状況

●事業推進部

【在宅事業推進室】

- ・ 居宅相談室会議支援（4回/年）
- ・ 訪問介護事業会議支援（4回/年）
- ・ 通所事業会議支援（4回/年）
- ・ 各会議体からの月報提出、情報共有、会議内での意見交換、ビジョン福祉35について協議
- ・ 通所事業はダイチャレンジを実施
- ・ ハーティケアセンター運営会議、職員会議への参加
- ・ 在宅サービス事業所管理者、リーダー等への事業運営指導
- ・ 医療福祉介護連携会議へ参加
- ・ 喜茂別町、留寿都村にて居宅介護支援事業、訪問介護事業支援
- ・ 喜茂別町地域ケア会議参加
- ・ 喜茂別・留寿都広域会議に参加

【キャリア支援室】

- ・ 法人本部主催の研修会の開催（全11回：参加者延べ438人）
 - 認知症研修会の開催（1回：参加者延べ68名）
 - メンタル研修会の開催（2回：参加者延べ73名）
 - 管理者研修会の開催（2回：43名）
 - コミュニケーション研修会の開催（2回：参加者延べ85名）
 - クレーム・介護事故予防研修会の開催（1回：46名）
 - 虐待防止研修会の開催（1回：25名）
 - レク研修の開催（1回：27名）
 - 介護保険改正への対応研修会の開催（1回：70名）
- ・ 認知症学習会の開催（12月から毎月実施、12回：参加者延べ96名）
- ・ 各施設・事業所の要請に応じた研修会への支援
 - 各施設・事業所の要望に応じた講義の実施（11回：参加者約200名）
 - 各施設・事業所で開催する研修会講師の調整（19回対応）
- ・ 腰痛予防研修会の実施（4回：参加者延べ94名）
- ・ 介護初任者研修講師派遣（藤女子大花川キャンパス：延べ24名、研修参加者24名：介護職応募者1名）
- ・ 介護支援専門員受験対策講座の開催（6回開催：参加者延べ160名）
- ・ 介護福祉士受験対策講座の開催（10回開催：参加者延べ49名）
- ・ キャリア段位評価者受講支援、外部評価者講習参加への支援

【施設サービス室】

- ・ 介護職会議の実施支援（4回/年）
- ・ 施設ケアマネ会議支援（4回/年）
- ・ 施設看護職会議支援（4回/年）
- ・ 施設相談職会議（4回/年）
- ・ キャリア段位調整会議支援（2回/年）
- ・ 各会議体からの月報提出、情報共有の実施、会議内での意見交換実施
- ・ ショートチャレンジに参加（相談職会議）
- ・ 施設ケアマネ会議では、各施設実施のアセスメント情報の共有、検討
- ・ 介護職会議では、施設のAI集計評価と今後の展開検討
- ・ 施設看護職会議では、情報共有と施設課題の意見交換、無資格職員研修の検討

【リハビリテーション室】

- ・法人リハ全体会議（9月）
- ・老健リハ連絡協議会の開催（6月・3月）
- ・特養・通所・訪問系リハ連絡調整会議（6月）
- ・訪問系リハ会議（3月）
- ・通所介護担当者会議（2月）
- ・室長の各施設への訪問（4月・5月・8月・11月）市内の事業所は随時訪問
- ・養成校の就職説明会参加（4校）
- ・社）溪仁会リハ部門合同研修会、リハ室懇親会（9月）
- ・社）溪仁会リハ部門札幌ブロック研究発表会（3月・計3回）
- ・法人内施設・事業所への講師派遣（延べ7名）、外部への講師派遣（延べ7名）
- ・言語聴覚士派遣（毎月）：コミュニティホーム八雲、菊水こまちの郷、月寒あさがおの郷
あおばデイサービスセンター、手稲つむぎの杜、コミュニティホーム岩内、きもべつ喜らめきの郷、るすつ銀河の杜
- ・作業療法士派遣（毎月）：菊水こまちの郷、きもべつ喜らめきの郷、るすつ銀河の杜
- ・研修受け入れ：コミュニティホーム美唄の言語聴覚士、コミュニティホーム白石にて月1回
- ・研究発表（溪仁会グループ研究発表会6演題、全国言語聴覚士学会1演題）
- ・各施設リハ部門の内部研修の水平展開
- ・介護保険制度と実際の運営に関する情報共有と問題解決（業務管理室と協業）
- ・訪問リハ事業の拡大
- ・リクルート用パンフレットの作成
- ・実習受け入れ施設の拡大
- ・地域での他職種向け研修会、介護予防教室、他

【栄養管理室】

- ・栄養管理者会議の開催（6月・10月・2月）
 - *情報の交換（各施設の食事サービスに関する報告、各施設の運営目標の評価報告等）
 - *栄養ケア事例集の作成
 - *介護報酬改定（経口維持加算）の対応について資料作成・情報提供
- ・勉強会の開催
 - * 6月：褥瘡予防・管理ガイドラインと栄養について
 - * 10月：食物繊維と排便コントロールについて
 - * 2月：褥瘡とコラーゲンペプチドについて
- ・手稲つむぎの杜の栄養・食事サービス業務の遂行

【業務管理室】

- ・CSR事業推進会議の開催（4回）
- ・KMS担当者会議の開催（2回）
- ・監督官庁実地指導（監査）立会い（20事業所：介護予防含む）
- ・内部実地指導実施（35事業所：介護予防含む）
- ・自己点検確認（35事業所／56事業所：介護予防・障害含む）
- ・事業所事故報告確認（監督官庁報告168件）
- ・KMS・医療福祉介護連携会議への参加
- ・各施設運営会議への参加
- ・各職種会議への参加
- ・各施設への業務支援
- ・コンプライアンス研修の開催（1回）
- ・リスクマネジメント研修の開催（2回）

●経営管理部

【経営管理課】

- ・理事会（5月・10月・2月・3月）、評議員会（5月・10月・3月）の開催
- ・経営管理会議の開催（毎月開催）
- ・総務担当者会議の開催（1月）
- ・経理・総務内部相互監査の実施（5施設）
- ・受託業務の申出・契約・実績報告・請求等の支援
- ・各種補助金の請求等の支援
- ・定款変更等行政に対する認可申請事務（4月・6月）
- ・介護報酬請求システム運用支援
- ・各種規程等の改正（就業規則・給与規程・経理規程・慶弔見舞金規程・赴任規程・キャリアアップ支援規程・育児・介護休業に関する規則）
- ・決算・予算及び各月度速報及び確定財務諸表作成事務
- ・各種契約案件における入札事務（17件）
- ・新規開設事業に係る支援（留寿都、手稲）
- ・職員の定数管理
- ・各種会議への参加、他